

### 第3回釜石市民ホール建設検討委員会開催結果

日 時	平成25年10月15日（火）13時30分～15時30分
場 所	第4会議室
出席者	次頁のとおり
次 第	以下のとおり
結 果	下記のとおり

#### <次第>

1. 開会
2. 挨拶
3. 釜石市民ホール基本構想（案）について
  - ①意見反映状況
  - ②配置計画案、基本構想修正案
  - ③茅野市民館視察状況報告
4. 意見交換
5. 事務連絡
6. 閉会

第3回釜石市民ホール建設検討委員会 出席者名簿

氏名	備考	出欠
◆釜石市民ホール建設検討委員会		
岩切 潤	釜石市芸術文化協会会長	出席
佐々木 重雄	釜石商工会議所専務理事	欠席
木下 佳子	かまいしの第九実行委員会事務局長	出席
久保 秀俊	市民劇場実行委員会事務局長	出席
山内 真紀人	釜石市民吹奏楽団指揮者	出席
野島 諭	宝樹寺住職	出席
菊池 政時	画家	欠席
山崎 詔子	演奏家	欠席
福成 菜穂子	自営業	出席
山口 里美	R C F 復興支援チーム	出席
井上 淑子	市民公募	出席
西条 佳泰	市民公募	欠席
◆事務局		
平松 福壽	釜石市	復興推進本部 リーディング事業推進室 室長
佐々木 護		主任
菊池 太介		主任
茨木 いずみ		釜石リージョナルコーディネーター
伊東 正示	株式会社シアターワークショップ 代表取締役	
山下 貴子	株式会社シアターワークショップ チーフ	
氏原 茂将	メディアセブン企画・運営ディレクター	
◆庁内関係者		
菊池 郁夫	釜石市 教育次長兼市民文化会館館長事務取扱	
佐々木 研一	釜石市教育委員会 市民文化会館館長補佐	

<結果>

1. 開会（佐々木主任）

2. 挨拶（平松室長）

平松室長：今日で基本構想の結審としたい。一区切りではあるが、まだ設計、経営と先行きは長い。これからどんなホールにしていくなのか、今後につながる意見をいただきたい。

・配布資料の確認

3. 釜石市民ホール構想（案）について

・第2回委員会議事録の確認 → 修正なし

(1) 意見反映状況

平松室長から別添のとおり説明。

(2) 配置計画案、基本構想修正案

シアターワークショップ山下さんから図面の説明。

敷地内に収まることをシミュレーションするものなので、必ずしもこの通りになるわけではない。イメージとしてご覧いただきたい。敷地については5mほどストリートを詰める形で拡大。ホワイエやギャラリーが広くなり、トイレ、事務室も少し大きくなっている。2階には和室を原状とする部屋を用意した。稼働率が少ない場合は洋室としても使えるようになっている。

(3) 茅野市民館視察状況報告

平松室長が資料を用いて説明

茅野の市民館について、滞在時間が2時間程度で、HP上の図面を体感してきたという程度だが、釜石にも活かせる部分があるかと思う。ホールは780席。駅から細長い通路で直結している。マルチホールは、フルフラットにできたり、2階を閉めて使ったりすることもできる。全体的にガラス張りを多用しており、誰が何をしているのかが外から見やすい。マルチホールは音楽専門ではないが、様々な用途に対応でき、使い勝手がよさそう。運営NPOの事務所もあり、市の皆さんと一体になって、上

手に使っているという印象。

秋田県の由利本荘ホールについて、席数は1,100席程度。大ホールから後ろのロビー、そして外がフルフラットになる構造は茅野と共通の特徴。これによってお祭りの対応や展示会等いろいろな対応ができる。マルチホールと言いつつ、本格的なシンフォニーホールでもある。規模感等、リアスホールに近い。座っていても1人通れる程度のスペースはある。ホールの中にはボランティアの部屋、中央公民館の事務室、喫茶店、特産品コーナーもあり、結構な人出だった。図書館も併設されており、インターネットコーナーやDVDの貸し出しも行っている。小規模でありながら、音楽ホールとしてもすぐれている。椅子の座り心地もよい。マルチにすることで何もかも中途半端になるという懸念があったが、由利本荘ホールを見る限り、その心配はなさそう。予算の許す範囲で工夫していければ良いと感じた。

#### 4. 意見交換

岩切委員長：今回ご説明いただいた案に対して、気がついたところからご意見をいただきたい。

岩切委員長：何か所か移動式のホールに座ったことがあるが、たいていは固かった。報告の映像を見る限り、よさそうだ。平たくもなるので、使いやすくなりそうだ。

事務局山下：由利本荘のときに新しい椅子を開発した。たたみ方を工夫し、劇場椅子と変わらない厚みを実現している。普通に座っていたら、これがたたまれる椅子だとはわからない。

福成委員：ゆったり感もあり、椅子の座り心地もよいということで、好感がもてた。時代も変わってきている。このような可動式のホールもこれからはよいのではないか。

井上委員：小ホールの椅子は、以前のように運び込む椅子なのか。それとも設置型なのか。

事務局山下：以前のように運び込むタイプ。

井上委員：数は200か？平面だと前の人頭が邪魔になり見づらい。

事務局平松：今のアイデアでは平土間。

井上委員：利用状況を見ると、大ホールの利用率は減っており、中ホール

の稼働率が高い。そのあたりは検討していただきたい。

事務局平松：300人程度だと使いにくいのか、それとも活発に利用されているのか。それも含めて大ホールの席数を検討したい。皆さんにご意見をいただきたいと考えている。

久保委員：大は小を兼ねるというが、お金のことを言われると何も言えなくなってしまう。それを踏まえて1200席という意見を前回言わせてもらった。満席にしなければいけないのか。1000人のうちの800人でも、それなりの満席感は得られるのではないのか。

岩切委員長：一通りご意見を聞いていきたい。

木下委員：一通り今までの議論を取り込んでいただいているので、特に意見はないが、交流センターのカフェは必要ないということではなかったのか？

事務局平松：まだ検討中ではあるが、以前も喫茶店はあり、帰りがけ等に寄りたいという意見もあった。それを目当てに若い人が集まるといふこともあるので、現状では交流センターへの設置ということにしている。

事務局山下：ホールにつけてしまうと本当にホールに来た人だけのものになってしまうが、交流センターにつけることで、来やすいようにしている。

木下委員：大ホールから小ホールへのピアノの移動は？

事務局平松：備品についてはまた別の話。

事務局山下：スタンレー3台を入れるというのは難しいと思うが、導線があればホール間の移動はできるようにしたい。

野島委員：2点伺いたい。1点目は可動式の客席のデメリットについて。2点目は、稼働の客席の場合、ガタガタしたりきしんだりということがないのかどうか。

事務局平松：動くようにするための仕掛けが必要なので、その分イニシャルコストとメンテナンス費（茅野の場合年間400万程度）がかかる。それが実際にどのくらいの費用になるのかは、設計してみないとわからない。コストの範囲でどこまで動かすかは今後検討。

事務局山下：茅野のホールよりはもう少しコストダウンできると思う。

事務局平松：2点目の質問について、茅野の場合は「箱鳴り」するだろうと感じた。由利本荘の場合、あまりそれは感じなかったが、サントリーホールと同様というわけにはいかない。

野島委員：小ホールを可動式にするのはなぜか？

事務局平松：椅子を運び込むタイプのホールを考えている。

野島委員：1階にギャラリーがあり、2階にはほぼ同様の何もないスペースがある。小規模のライブ等で稼働率がある程度あるとすれば、椅子は固定の方が利用しやすいのではないか。多目的の方はギャラリーで兼用できるのでは。若ければいいが、出し入れが大変そう。

岩切委員長：使いたい日程は春か秋に集中する。そういった手間は覚悟の上で借りていたものだ。

事務局平松：大ホールと小ホールのバランス、今までの使われ方を考慮してこのような形になった。

野島委員：もう1つだけ。茅野のホールの後ろには美術品収蔵庫がある。釜石市内には1つもない。うちで見つかった美術品を市の方に寄託したいが、寄託先がない。今の収蔵庫は水漏れがあり使えない。地域の文化財をリストアップし、集約できるものは集約していかないと散逸してしまう。手入れをしなければごみになってしまうのもったいない。今後のこととしてご意見させていただく。

岩切委員長：教育次長もご出席されていることだし、文化財の保護をお願いする。

事務局山下：1つ補足させていただく。茅野は隣に美術館があるので、収蔵庫は美術館のもの。

福成委員：ギャラリーは本当に必要なのか考えていただきたい。可動式のメンテナンス費は次世代にもかかってくる問題。しっかり見極めていただかないと。例えば350人規模のよそのホールを見ても、使い勝手が良さそうでうらやましい。釜石は音楽活動をする若者が多い。そういった若者が気軽に使える空間になれば。展示の多い時期は、交流センター等もうまく利用しつつ、工夫していただきたい。期待と不安両方もっている。

山口委員 : 文化会館の利用データを見ると、傾向がうかがえる。大ホールの利用率は落ちているが、中ホールは上がっている。研修室にも同じことが言える。この傾向から見えることを踏まえて新しい市民ホールを造るということであれば、その意図も明文化した方がわかりやすい。また、交流センターで話し合われている内容をこちらにも共有することで、バランスのいい役割分担ができるのではないか。

山内委員 : 大体のところはみなさんの意見と同じ。今まで経験で話させていただいたが、今のホールづくりは経験だけからは語れない面もある。由利本荘のホールは先日私も見てきた。椅子がなくなると思えないホールだと聞いて。客席を見て、これはすごいと感じた。席数は1100と聞いた。茅野は800。茅野の周囲には駅など、他に人が集まる場所がある。そのようにエリア全体を見て設計していくことが大切である。一番困るのは、そこで何をやらしたいのかわからない場所になってしまうこと。あの部屋に行けばこれができる、だと市民の目的がはっきりする。あの部屋ではなんでもできる、となると最終的にはお金。若い人も使いやすいような大ホールになってほしい。前よりも新しく立派なものになるなら高いだろう、と心配している若い人が多い。お金がないために使えないというホールにはなってほしくない。

岩切委員長 : 和室にはやっぱり炉を切ってもらいたい。227万円を寄付する。それくらいの意気込みがある。シープラザでも展示するところでお茶を差し上げたが、その方からも要望がある。227万円も寄付するのだから、なんとかしてほしい。使わなければふたをかぶせておけばよい。今の構想では水屋がないことも問題だ。炉を切る位置を決めるには床の間も必要だがつくらないという。和室を作ったのに炉がないというのはいかなものか。

福成委員長 : 岩切さんの言うことはもっとも。畳があれば和室というわけではない。茶室としての佇まいなど、和の趣を考えていかなければならない。日本の文化を伝えていく場所がどこかには必要。残しておかなければならないと思うので、再度ご検討いただき

たい。

野島委員 : 運営時間については基本構想では決めるのか。以前のように 17 時に職員が帰ってしまうのでは、練習室等を作っても意味がない。部屋を作ったけど、時間の都合で使えないということがないように。寺の中に練習室を作ろうか検討しているが、こちらがきちんとしたものであればこちらはやらなくてもいいだろう。

事務局平松 : 以前は朝 10 時～夜 10 時までには利用できていた。職員がいなくなっても施錠を管理できる仕組みがある。

野島委員 : そういうことであれば問題ない。

岩切委員長 : 運営については、また別途決める機会があると思うので、そちらに譲りたい。

久保委員 : 小ホールのステージの大きさは？

事務局山下 : 組立式なので、使う広さの分だけもってくる形になる。

久保委員 : 若い人でなければ設置は大変なのではないか。

事務局山下 : 重さ等は負担なく運べるものになっている。

福成委員 : ステージの組立はスタッフが行うのか

山下委員 : 利用者が行う。

福成委員 : ステージをつくるのは大変そう。

井上委員 : 固定したものの方が使い勝手がよさそう。

岩切委員長 : 今までの中ホールの舞台は下に物が入られる。今までのものより低くできるか。

山内委員 : リアスホールがすごく利用されている。利用者が殺到して初めて必要だということがわかった。経営が行き詰ってしまって、小ホールが倉庫として使われるようになってしまうようでは元も子もない。大ホールがマルチで使えるのなら、コンサートができて、舞台があるホールがあってもいいのではないか。

事務局平松 : そこは組み合わせ。皆さんの意見を集約して提案していきたい。

事務局山下 : 舞台を固定すると、使えるエリアが決まる。それでも舞台を置きたいというのであれば、また、練習室・リハーサル室は不足しているという意見があり、小ホールがそれを兼ねられればということも考えている。

福成委員 : 中ホールのかつての利用者の中心は、中規模な音楽教室の先生。



わざわざステージを自分で設置して、となると面倒で利用されなくなりそう。メインのところが可動式であるなら、固定のホールがあってもいい。コスト面では小ホールの方が使いやすい。市民のみなさんの使い勝手を考えてほしい。

岩切委員長：小佐野のダンスグループが4グループあるが、場所の取り合い。早く造ってほしい。

木下委員：小佐野はタダで使えるから。リハーサル室の稼働室が高かったのは安いから。リハーサルのためにそれより高い小ホールは使わない。それくらいであれば、ちゃんとしたホールにした方がよいのでは。

山内委員：以前の文化会館は、大ホールと中ホール以外はいろんな人がいろんな風に使えるようにとすることで置いたのだろう。そういう風に使える部屋は必要だろうが、どのくらいいるのか。小佐野は音が出るような活動だと受け入れてもらえない。造ったはいいが、利用料が高くて使えないとならないように、今貯金を始めている。今はお金を払って音楽を聴くことが少なくなっている。1万円払って音楽を聴きたいという人はほとんどいない。収入を得るためには、利用する人のことを考えなければならない。

久保委員：管理は指定管理か？北上は使用料ですべて消えている。

事務局平松：両方取り入れて造る面もある。経営していくということもあるので、ベストなものを提案していきたい。無料でというわけにはいかないが。

久保委員：劇づくりは練習が大部分。それができなくなるということは活動できなくなるということ。

事務局山下：経営という話でいくと、支出の1～2割しか収入がない。あとは全部指定管理料等。使ってくれないよりは使ってくれた方がいい。どうやったら皆さんがいっぱい使ってくれるかという視点でソフト・ハード両面についてご意見いただきたい。

事務局平松：全く使っていない人の税金も使われていることを考えて、受益者負担を検討してほしい。

福成委員：指定管理のイメージが悪い。お金を取れるものばかり集めてく

るイメージ。本当に釜石の文化を守れるか。みんなで利用して、みんなでよかったといえるものができるように検討していきたい。

#### 5. 閉会（佐々木主任）

皆さんからもらった意見を反映する時間をいただきたい。今月末を目処にまとめたものを皆さんのご自宅に配送する。修正してとりまとめたものを市長にお渡しする会を今月末に開催予定。